

【売上計上基準】

うりあげ
けいじょう
きじゅん

会社が得た売上をいつ計上するかを決めるのが「売上計上基準」です。企業会計原則で売上高（売上の総額）は、実現主義の原則に従い、商品等の販売または役務の給付によって実現したものに限り、とされています。この実現主義に基づき、「出荷基準」や「検収基準」などがあります。

出荷基準では、商品を出荷発送したタイミングで売上を計上します。検収基準はお客様が検収したタイミングで売上を計上します。

多くの会社が出荷基準を採用していますが、動作確認を要する商品などの場合には、検収基準を採用する会社もあります。

どちらを採用するかは会社の自由ですが、一度採用した基準を継続適用することが必要です。

工事進行基準

企業会計原則の実現主義の例外として、長期の未完成請

負工事等については、合理的に収益を見積もり、これを当期の損益計算に計上することができる」とされています（工事進行基準）。しかし、2021年4月に原則として工事進行基準は廃止されました。

一方、税務では、工期が1年以上でその請負対価が10億円以上の特定の支払条件を満たす長期大規模工事については、「工事進行基準」を適用するとしています。

収益認識に関する会計基準

主に大企業向けですが、2021年4月から会計基準が収益認識基準に変更されました。5つのステップ（①契約の識別、②履行義務の識別、③取引価格の算定、④履行義務への取引価格への配分、⑤履行義務の充足による収益の認識）を経て検討した金額とタイミングにより、計上することになっています。

なお中小企業は従来どおりの処理も可能とされています。

| 新連載 |

担当者なら知っておきたい

「経理用語」



(株)CFO代表
税理士・
米国公認会計士
高橋 和徳

【売上債権管理】

うりあげ
さいけん
かんり

売上請求書を発行後、帳簿に売上を記帳しますが、そのときに売掛金台帳も作成します。売掛金は、将来的に代金を受領する権利のことで、こうした債権を「売上債権」といいます。

売掛金が入金されたとき、請求金額と差が生じることがあります。その原因は、検収タイミングのずれ、振込手数料、返品等の記録漏れなどです。入金時に計上した売掛金を消込む際には、必ず毎回、入金額と差がないか確認し、あった場合は理由を正しく把握します。

月ずれであれば翌月には解消されるはずなので、次月に確認します。手数料等での差額は入金時に帳簿処理をします。月末に客先別に残っている「あるべき残高」を把握することも経理の仕事です。

滞留売掛金とエイジングリスト

取引条件どおりに回収されず、長期間売掛金が残っている

る（滞留売掛金）客先には、回収のフォローが必要となります。会社によって経理部門が行なうのか営業部門が行なうのか異なりますが、経理部門は最終的にすべての客先の売掛金が正しくなるようにモニターします。

売掛金残高を発生月別（年齢別）に示す表を「エイジングリスト」といいます。

売掛金が売上高に対し何か月残っているかなども管理指標となります。滞留売掛金は資金繰りにも大きな影響を与えるためです。

与信管理

商品を提供して代金を回収するまでの間を「与信」（信用の供与）といいます。客先ごとに売掛金残高の限度額を設定し、実際の売掛金残高がこの限度額を超えていないかをチェックします。

油断すると回収が遅れて与信限度額を超えてしまい、貸倒れリスクが増大します。▲